

船舶事故調査報告書

令和2年3月25日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	転覆
発生日時	令和元年7月16日 09時46分ごろ
発生場所	北海道泊村茶津漁港西北西方沖 後志泊港灯台から真方位262°5.2海里付近 (概位 北緯43°03.3′ 東経140°22.4′)
事故の概要	プレジャーボートシードラゴンは、漂流中、転覆した。
事故調査の経過	令和元年7月24日、主管調査官（函館事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート シードラゴン、5トン未満（長さ5.60m）
船舶番号、船舶所有者等	200-32754北海道、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	後部甲板に浸水（全損）
気象・海象	気象：天気 曇り、風 ほとんどなし、視界 良好 海象：海上 平穏、水温 約20℃
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者1人を乗せ、ビルジポンプを作動させながら漂流して釣りを行っていたところ、後部甲板に浸水した。</p> <p>船長は、船外機を始動しようとしたが、始動できずにいるうちに甲板上の海水の滞留量が多くなって船体後部が水没状態となり、船体が傾き始めたので、転覆すると思い、118番通報した。</p> <p>船長及び同乗者は、船体が右舷側に傾いて転覆した際に落水し、海面上に出た船首部に掴まり救援を待っていたところ、海上保安庁のヘリコプタにより発見され、来援した救難所に所属する漁船に救助された。</p> <p>船長は、約10年前から本船（平成11年6月進水）のビルジの滞留量が年々多くなっていることに気付いていたが、ビルジポンプで排出すれば船体が沈むことはないと思っていた。</p>
分析	<p>本船は、約10年前からビルジの滞留量が年々多くなっている状況下、適切な防水措置が取られないまま出港したことから、漂流中に甲板上に浸水した海水の滞留量が多くなって船体後部が水没状態となり、転覆したものと考えられる。</p> <p>本船は、船長がビルジポンプで排出すれば船体が沈むことはないと思っていたことから、防水措置が取られないまま出港したものと考えられる。</p>
原因	本事故は、本船が、約10年前からビルジの滞留量が年々多くなっ

	<p>ている状況下、船長がビルジポンプで排出すれば船体が沈むことはないと思いき、適切な防水措置が取られないまま出港したため、漂泊中に甲板上に浸水した海水の滞留量が多くなって船体後部が水没状態となり、転覆したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止及び被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ビルジ滞留量の増加を認めた場合には、上架して専門業者による点検を行い、修理すること。